



穂北小学校 学校だより

穂北っ子

考える子ども
協力する子ども
たくましい子ども

令和2年7月31日 永田

～心豊かで 知性にすぐれ たくましい体をもった 実践力のある子どもの育成～

辛抱できる子どもに

例年より長い1学期が終わりました。臨時休業が1ヶ月以上ありましたので、子ども達が学校に来たのは例年の1学期より少なかったのですが、1学期終了段階での全校児童が無欠席の日は昨年度より増えました。臨時休業が長かったので、「学校に行きたい」という思いがあったからかも知れません。今学期も大きな事故やけが等がなく生命の安全が保たれたのがとてもうれしいことです。保護者や地域の皆様にとっても感謝しています。

明日から夏休みです。3週間後には2学期が始まりますので、夏休み期間中にも規則正しい生活を続けると同時に、コロナウィルス感染予防を行い、①課題②読書③手伝いをしっかり頑張りたいと思っています。保護者の皆様の声掛けと見守りをお願いします。

さて子ども達はいま我慢させられていることが沢山あります。新型コロナウィルスの治療法が確立していない現状からすれば、あきらめられるということも考えられます。しかしそれ以外のことで我慢させられると恐らくどこかで爆発するはずで

我慢と同じ意味で使われるのが辛抱です。「辛抱する」を辞書で調べると「我慢する」と書かれています。ただ少しニュアンスが違います。「辛抱する」というのは「つらさや苦しさを我慢する」という意味で、別な考え方をすると「目標や目的のために我慢する」ことにもなります。したがって、この我慢を乗り越えれば自分の夢や目標を達成することができるかも知れないのです。それが自信につながったり、これから訪れる困難に立ち向かう力を持てたりすることにもなります。そしてこの「辛抱する」を体験するには目標や夢が必要です。子ども達にとって身近なことで言えば、スポーツで勝つために苦しい練習を我慢することもその一つです。ただ、これは生きていく上でも必要で、以前に紹介した磯田道史さんも古文書を読めるようになるまで他のことは我慢しています。

先日あるテレビの番組で女子高生の体験談が紹介されていました。彼女は志望校に合格するために同級生のいじめや担任の言動にがまんします。そして見事に志望校に合格するというものでした。いじめを我慢することは現在では許されませんが、目標があるとそれくらい我慢することができるというものです。穂北小の子ども達も将来の夢や目標をもち、つらいことや苦しいことを辛抱してあるいは努力して夢を叶えて欲しいと思います。

8月月行事 (※変更になることがあります)

※5年稲刈り (8月17日予定)

1	土	夏季休業 (～19日)	24	月	地震避難訓練事前学習 (DVD)
10	月	山の日	25	火	地震避難訓練事前学習 (DVD) 清掃班会
11	火	学校閉庁日 (～14日)	26	水	支会児童会
20	木	2学期始業式 図書返却 運動会前健康調査	27	木	地震避難訓練事前学習 (DVD)
21	金	身体計測 (4～6年)	28	金	図書館会館 子ども人権110番 (～9/4)
24	月	身体計測 (1～3年) 代表委員会	31	月	避難訓練 (地震)

手作りマスクを頂きました



黒木 久子 様

黒木 勝子 様

森 静子 様

満留 カツ 様

古川 ヤヨイ 様

7月1日にマスクを頂きました。穂北地区主任児童委員の小島貴代子様が知人に声をかけて下さり、全校児童164名分のマスクを寄贈してくださいました。本当にうれしいプレゼントです。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。手作りマスクを作製・寄贈して下さったのは小島様の他に以下の方々です。7月7日の宮日新聞にも掲載されました。

妹と学校ごっこ (6月21日)

6年 柳田 彩音

妹に「遊ぼう。」と言われ、めんどくさいなと思いながら私は言われるがままに遊び始めました。学校ごっこと言われ遊び始めました。歩いていくところから、授業、給食、昼休みなど色々学校のような感じで遊んでいました。すると、最初はめんどくさいなと思ってやっていた遊びが、楽しいなと思うようになってきました。多分、学校に行きたいなと思いながら、このような事をすると、行けないストレスが無くなるからだと思います。私は親が仕事から帰ってきたらイライラしてそのストレスをぶつけたりしていました。兄妹ともすぐケンカをしていたのでダメだなと思っていました。こうやってストレスがなくなることが見つけられてよかったです。でも、妹とすぐケンカをしてしまうので、仲よく遊べるようにしたいなと思います。

※ 宮崎日日新聞の「みんなの作文」の欄に掲載されました。

地震がおきたら (7月3日)

5年 法元 悠貴

寝ていたら警報がなった。「地しんだ」。僕は、布団をかぶって身を守った。揺れはおさまった。揺れがおこったときに、僕は体が動かないくらい怖かった。

この後僕は、1階の居間へ下りた。そこは、食器やビンなどのガラスの破片などが飛び散って、前も後も歩けないくらいだった。それを見て、僕はどうしようかとあせってしまった。考えて考えた結果、身の周りの本や布団、プラスチックの箱などを使って足を守った。

これは、僕の地震のシミュレーションだ。このように、地震がおこったときは、いろいろな物を使って身を守りたい。そしてたまには防災バッグの確認をしたい。それで日ごろから、地震に備えることができる僕でありたい。

※ 宮崎日日新聞の「若い目」の欄に掲載されました。

第2回奉仕作業 ありがとうございました。



島内村・島内住宅、立野、南方団地、下水流・中須を始め、第2回PTA奉仕作業に来てくださった皆様ありがとうございました。熱心に作業して下さったので1時間で終了しました。